



三度の食事の時もpHは下がるのですね～



睡眠中は唾液の分泌が少なくて、pHが回復にくい

キシリトールは虫歯予防になるって本当？

樺島弘文 (生活なんでも調査隊員1号)
Hirofumi Kabashima

恥

恥ずかしながら、生活なんでも調査隊の一號隊員である私はこれまで、「キシリトール」が甘味料の一種であることを知らなかつた。なんとなく、虫歯を防ぐ薬剤か何かだと思つていたのだ。だから「キシリトールガムを噛めば虫歯にならない!」「歯磨きの代わりにキシリトールガムを噛めばいい」と思い込んでいた。

このたび調査をしてみて、確かにキシリトールは虫歯予防に役立つが、虫歯を防ぐ魔法の薬ではないことがよくわかつた。「うちの子にはキシリトールを与えているから安心」と考えていた親御さんは要注意である。

まず、虫歯はどうしてできるのかについて説明しよう。炭水化物とともに

まさにさせないためには、食事や間食は少ないほどよいことになる。

山田先生は「虫歯を防ぐには、間食をやめることが一番。三度の食事だけをしている分には、そう虫歯にはなりません。食事のときは、間食時よりも唾液もたくさん出る」と説明する。

キシリトールには歯の修復である再石灰化を助ける作用もあるが、唾液の働きのほうが勝るようだ。唾液をたくさん出すことが、最も虫歯を防ぐことにつながると話す。実際、スルメや梅干しで唾液を出すようにしても、再石灰化は促進される。もちろん、同じガムなら虫歯の原因とならないキシリトール一〇〇%のガムがいい。

キシリトールの活用を勧めているいの歯科医院の小池匠先生は、「食後の歯磨きの後、キシリトール入りのガムを噛むことを指導しています。ガムが噛めない小さなお子さんの場合は、タブレットをなめるのがいい。タブレットだとキシリトール一〇〇%ですか」と語る。

小池先生によると、虫歯予防先進国（フィンランド）では、昼食後に歯ブラシでブラッシングした後に、キシリトール入りガムを噛むという。

「キシリトールは第二次世界大戦のとき、砂糖が不足して、代用として白樺のアルコールを添加して作られたものです。一九六〇年代までフィンランドは日本より虫歯が多いくらいでしたが、キシリトールを使うようになってぐんと減りました」

皆さんの疑問を大募集します

毎日の生活で不思議に思うこと、子供に尋ねられてもうまく答えられない疑問を、はがきに書いてお送りください。採用された方には、掲載誌をお送りします。

●宛先
〒102-8641
東京都千代田区平河町2-13-12
フレジントン・ファミリー編集部
「生活なんでも調査隊」係

チヨコレートを食べた後でもキシリトールガムを噛めば虫歯にならないとか、キシリトールガムは虫歯を治してくれるというのは、一号隊員の妄信で

らしい。
どうやら、甘い物を食べた後に、「歯の溶解＝虫歯の始まり」を防ぐのは無理なようだ。キシリトールガムなどで唾液の分泌を高めて歯の修復に努めるのが、食事前にフッ素入り歯磨きでエナメル質を守るかが、せいぜいのところ

しかし、虫歯は想像以上に手ごわい。山田先生によると、「歯の溶解は食べ物を口に入れて三分後から始まります。だから、通常いわれる「食後三分以内の歯磨き」では手遅れになる」そうだ。さらに「いちど歯垢内に取り入れられた糖分は、なかなか取り除けません。よっかんを食べた後に、お茶で歯をすくても、糖分は抜けない。歯磨きも、食べる前に歯を保護するためにフッ素入りのもので行ったほうがいいでしょう」と続けた。

どうやら、甘い物を食べた後でもキシリトールガムを噛めば虫歯にならないとか、食事前にフッ素入り歯磨きでエナメル質を守るかが、せいぜいのところらしい。

どうりで、一号隊員の歯は虫歯だけがタガタなわけだ。もちろん、これは言いのがれ的な結論である。

糖分を取ると、歯垢の中にいる細菌によって、酸が作られる。そして歯の周囲のpHが五・五以下の酸性になると、表面のエナメル質が溶け始める。つまり、食事をしたり、おやつを食べるたびに、歯垢では酸ができる。歯を溶かしているのだ。これが虫歯となる。

虫歯を防ぐためには、酸の原因となる糖分の摂取を少なくすることと、できるだけ早く酸性になった歯垢を中性に戻してやることが、大切である。その意味で、キシリトール入りのガムは虫歯の原因とはならない。

「しかし」と、キシリトールに詳しい東北大学名誉教授の山田正先生は忠告する。

「キシリトール入りのお菓子には、同時に砂糖を使っているものもあります。私の実験では、甘味料の九五%がキシリトールでも、残り五%が砂糖や水飴であれば、虫歯の原因になります」

「キシリトール入り」と書いてあっても、中身をよく確かめないと、安心できないのだ。

次に、酸性になった歯垢を中性に戻すことだが、これには唾液の働きが大きい。唾液の緩衝作用によつて、酸性は中和される。中性になると、リン酸とカルシウムが歯に沈着（再石灰化）して、歯が修復される。言つてみれば、歯は日頃から溶解と修復を繰り返しているのだ。そして、歯を溶解したまま